

多様な主体による連携・協働

(資料編 P53)

豊島区の現状

● 地域に広がる環境ムーブメント

豊島区では、環境に配慮した暮らしをしている区民をはじめ、企業、大学、商店街、NPO などのさまざまな主体によって、緑化や太陽光発電、LED 照明導入などの環境配慮行動の実践が広がっています。

環境問題の解決には、このような一人ひとりの取組みが不可欠です。それぞれの取組みが、他の主体と連携・協働することでより大きな動きに発展しつつあります。

● 次世代を担う子どもたちに向けて

環境問題は、遠い将来の話ではなく、現在の日常生活と密接なかかわりを持っています。次世代を担う子どもたちがこのことに気づき、学ぶことは、持続可能な社会を形成していく上で重要なことです。

そのため、区では、区民や地域団体との連携・協働により、子どもを対象とした環境教育事業を実施しています。また、小中学校においても、社会科や理科、総合的な学習の時間等において環境教育に取り組む動きが出てきています。

主な施策の実施状況

● 「グリーンとしま」再生プロジェクト

平成 21 年度から始まった「グリーンとしま」再生プロジェクトでは、区民、地域活動団体、企業等からなる実行委員会のもと、今年も様々な緑化活動を行いました。



◆ 「いのちの森」の植樹

緑豊かな地域の再生と、地域に住む人々を守る「いのちの森」をつくるため、区立公園および児童遊園 33 か所に、地域植生の特性にあった常緑樹等を 12,043 本植樹しました。

(平成 23 年 5 月 22 日～5 月 31 日)

植樹本数	植樹面積	参加者数
12,043 本	1,822.6 m ²	1,283 名

◆育樹活動

「学校の森」の植樹から2年、区施設への「いのちの森」の植樹から1年、植えた苗木は順調に育っています。その中でつる性の植物が繁茂し、苗木に覆いかぶさり、生長を遅らせている植栽地があります。こうした植栽地で地域の方とともに、7月と9月につる性植物を除去する育樹活動を実施しました。除草後は苗木にも日差しが十分に当たるようになり、今後の木々の生長が期待されます。

育樹施設	参加者数
8施設	76名



育樹活動

◆育樹講演会

これまでの植樹活動を振り返りながら、東日本大震災の被災地の状況も踏まえた森づくりの大切さと、「いのちの森」を守り育てることについて、横浜国立大学の宮脇昭名誉教授による「育樹講演会」を開催しました。講演会場の豊島清掃事務所では、昨年植えた苗木の生長確認と育樹活動を区民の方と実施しました。

会場には、「学校の森」「いのちの森」の最新状況や、5月に実施した「いのちの森」の植樹の様子、植樹に参加した方のメッセージカードを展示しました。

実施日	会場	参加者数
9月23日	豊島清掃事務所	105名



● 環境学習講座「こどもエコ体験隊」

環境保全行動に取り組む人材育成を目的として、小学生と保護者を対象に、身近な地域環境から地球規模の環境問題まで幅広く学ぶ、参加・体験型の環境学習講座を実施しています。区民、企業、NPO 団体など様々な立場の方が講師となり、農園体験や木材を使った工作づくりなど、子どもたちが楽しみながら学べる内容となっています。

平成23年度は、計5講座を実施し、延べ386名が参加しました。

回数	内容
全3回中 2,3回目	農園体験・じゃがいもを育てよう！ (1回目は22年度に実施済)
全3回	農園体験・だいこんを育てよう！
全1回	秋の森をたんけんしよう！
全1回	木の工作をしよう
全1回	水の旅を体験しよう！



「木の工作をしよう」で作った間伐材のランプ

● 環境授業

「学校の森」植樹をきっかけに、小中学校における環境教育の取組みがさかんになってきています。

平成23年度には、校庭や地域の自然観察や、プールにいるヤゴ等の水生生物の生態を学ぶ授業、世界各国で使われている子ども向けの環境学習教材「キッズ ISO14000 プログラム」による授業など、各学校の特性に合わせた環境授業を実施しました。これらの授業を行うための、様々な分野の専門家を派遣し、各学校の環境教育を支援しています。

6月の環境月間には、「CO₂削減としまアクションウィーク」として、各学校で「自分たちにできることは何か」について話し合い、さらに家庭でも省エネ行動に取り組んで、保護者を含めた家族全体で環境について考えました。



校庭の自然観察（長崎小学校）

	実績
環境授業 支援校	6校

● **としまエコライフフェア**

「としまエコライフフェア」は、区で行っている環境関連イベントの中でも最大規模のものです。平成 23 年度は、東日本大震災の影響による電力の供給不足が懸念される中で、来場する子どもたちも含め、一人一人がこれまでの生活様式を見直し、「エコ」な具体的な行動を起こすきっかけとなるように「大人にまかせちゃいけない！見直そう、今の生活を」をテーマに、30 団体の参加のもと、8 月に開催し、約 750 名が来場しました。



またこのフェアを通じて生まれた参加団体間のコミュニケーションは、フェアに限らず様々な事業を展開する際に大きな効果をもたらすことが期待されます。

実施日	参加者数
8月6日	744名

● **環境情報誌「エコのわ」**

「エコのわ」は、区が発行する環境情報誌です。「日常生活から地球環境を見直す」という視点に立ち、環境に配慮した暮らしや、それを実現する方法などをわかりやすく伝えることにより、区民の生活スタイルの転換を図ることを目的として発行しています。区民ボランティアの方と区の職員と一緒に企画・編集・取材を行い、誌面を作成しています。



実績	
発行部数	年 2 回 年間 220,000 部
内容	いま、ライフスタイルを見直そう 身近なエコが、ひとのわをつくる ほか

● 地域の環境活動支援

池袋・西池袋エリアが、公益財団法人東京都公園協会の「まちなか緑化事業」のモデル地区に選ばれ、平成 22 年度に続き、民有地の接道緑化が進められています。緑の体感原理を学び、それぞれの思いを形にする話し合いを重ねることで、様々な主体の皆さんが自発的に緑を増やし、素敵なおまちにしていこうという動きが広がりつつあります。平成 23 年度は 7 か所の植栽が行われ、心地よい通りの緑がつながり始めました。

実施日	内容
7 月 9 日	緑の植え込み・お手入れ講座
7 月 10 日	宣言ワークショップ
8 月 21 日	公開デザインプレゼンテーション(まちなかカフェ) お披露目(まちなかパブ)
～3 月まで	緑化施工 計7か所



お隣同士による植栽の例



宣言ワークショップ

今後の取組み

● 「グリーンとしま」再生プロジェクト

新設される区立公園への植樹や育樹活動を行うとともに、民有地への植樹協力を呼びかけ、引き続き緑豊かな都市の実現を目指します。

また、今後「学校の森」「いのちの森」を見守り、支援してくださる方々を広く募集する「育樹サポーター制」を開始し、地域とともに森を育てていくことに取り組んでいきます。